

命を大切に作る社会を作るため、動物虐待に関するドキュメンタリー映像を製作。

日本では動物を虐待しても看過されることが多い。一方アメリカ・サンフランシスコには、アニマルポリスという動物虐待を専門に取り締まる部署があり、動物を守る意識が市民に行き渡っている。子どもの健全育成にも害をなす動物虐待防止のため、非営利一般社団法人日本動物虐待防止協会はアニマルポリスの活動を紹介する映像を作成した。

子どもに深刻な影響を及ぼす動物虐待を放置してはいけない。

動物を家族の一員として愛情を持って接している方は多い。その反面、一部の心ない人による動物虐待のニュースも後を絶たない。

子どもが面白半分で動物を殺し、それがその後の犯罪への予兆になっていたというケースもある。動物虐待を放置することは動物だけではなく、子どもたちの健全育成の面からも好ましくない。

こうした現状に対し、非営利一般社団法人日本動物虐待防止協会は、動物を虐待から守る活動や、適正な飼育教育を通じて命を慈しむ社会教育の拡張を図るとともに動物たちが無意味な苦痛にさらされることのない、人と

動物との共生社会の構築を目的に設立された団体である。

同協会代表理事の藤村晃子さんは、動物虐待と同協会の活動について次のように語る。

「攻撃してケガをさせるということ以外に、エサを与えないとか、鎖につないだまま運動をさせない、必要な治療をしないなど虐待の範囲は幅広いのです。悪質ブリーダーは、売れないペットを見殺しにしています。でも、今の日本の法規制は取り締まりが緩く、虐待はあとを絶ちません。私たちは動物愛護法の改正や制度の見直しを行うための活動をしています」

現在、同団体が動物愛護法改正に関して請願している内容はホームページに掲載されている。



今回作成した DVD



DVDに収録されている内容



サンフランシスコ市動物保護管理局のアニマルポリス

これまで、日本動物虐待防止協会のホームページで署名を募集したところ、全国から法改正を求める賛同を得て51,000名の署名を集めることができた。これを関係僚や議員に届けるほか、セミナーやシンポジウムを開いて動物虐待の現状と法改正への理解を訴えてきた。メンバーには、デヴィ夫人、滝川クリステルさん、浅田美代子さんなどの著名人も加わり、ラジオ、雑誌などでのPR活動も活発に行っている。

動物虐待を取り締まり、動物保護に奔走するアニマルポリス。

そうした啓蒙活動の中で、藤村さんにはどうしても日本人に見せたい映像があった。

「アメリカでは州によって法律は異なりますが、概ね動物虐待には厳しく、サンフランシスコにはアニマルポリスと呼ばれる専門部署もあります。その活動実態を紹介するDVDを作ったのです」

今回、AJOSCの助成を受けた藤村さんは、仲間と共にすぐさまサンフランシスコへと飛んだ。本職が放送作家の藤村さんは企画・プロデュースからナレーションまでを一人でこなし、予算も切り詰めた。

DVDに登場するアニマルポリスは、サンフランシスコ市動物保護管理局に所属する警察官で常時10名のスタッフが勤務している。ケガをした動物の保護、迷子動物の管理の他、虐待者を逮捕する権限も持つ。施設内には、

担当者より



子どもたちが動物を大切に作る社会=幸福な社会だと思います。

非営利一般社団法人
日本動物虐待防止協会 代表理事
藤村晃子さん

助成を受けて子どもたちの健全育成に寄与できる映像を作りました。動物を大切に作る子どもたちのいる社会こそが幸福な社会だと考えています。この映像を見て学んだ子どもたちが、今度は実際に動物とふれあえる施設を作っていきたいと思いますので、これからもあたたかく見守っていただければと思います。皆様のご支援を宜しくお願いします。

手術室、迷子動物ルーム、野生動物ルームなどもあり、動物園なみの充実ぶりだ。また保護された動物や、譲渡が可能な動物はデータベース化されてオンラインで検索できるようになっている。例えば飼い主から検索を依頼されると、性別や年齢、サイズなどで検索すればすぐに発見できるのだ。

毎日の出勤回数も頻繁だ。木に登り降りられなくなった子猫の救出、ケガをしたカモメの保護、遺体の処理、迷い犬の保護など矢継ぎ早に連絡が入る。

「弱者である動物を守ることが市民の義務だという認識が行き渡っているのですね。例えば海外には動物保護シェルターがあります。そこにいる動物は子どもたちに世話をさせて、動物との関わり方や命の尊さを自然に覚えさせていくのです」

それと比較すると、虐待が見逃され、保健所に保護されても処分されてしまう日本の現状は「子どもの健全育成、そして社会全体への影響から見てもよくありません。命を大切に作る心を育むことが、虐待や犯罪などの将来的なリスクを減らすのです」と藤村さんは語る。

DVDは動物専門学校の生徒に見せたところ、大きな関心を集めた。これを足がかりに、小中学校や警察署などでも見てもらいたいと考えている。アニマルポリスや保護シェルターが日本にできる日も遠くないかも知れない。